

まことの保育の在る場所

～日々の中のまことの保育～

深澤 素子

(第二里の西保育園)

浄土真宗本願寺派保育連盟において「まことの保育課程」を実践している幼稚園、保育園、こども園で学びを深めた子どもたちもいずれは卒園をしていくことになる。そのような子どもたちにとって「まことの保育」はどのように心に刻まれているのだろうか。それは私自身が15年間奉職させていただいた京都女子学園京都幼稚園を退職し「まことの保育」の実践現場から離れたことで気づいた思いでもあった。

今回「ぞうきんがけとぞうさんがけ」という1冊の絵本に巡りあえたことで自分自身の中に芽生えていたであろう「まことの保育」の心を見つめなおすことができた。そして「まことの保育」の理念のもと教育、保育を実践し「目には見えないもの」を感じ取ることでできる力を育てていく長きにわたる取り組みは子どものところに刻まれており、日々の生活の中で「まことの保育」に気づく空間が世の中にはたくさんあることを感じた。今回は絵本や子どもの言葉のつぶやきから『「まことの保育」のある場所』についての自身の気づきを述べさせていただく。

京都幼稚園では親鸞聖人の体せられた仏教精神に基づき、教職員と保護者と共に「まことの保育」の実践に歩みを深めている。平成28年(2016年)に京都幼稚園創立100周年を迎えたことをきっかけに、先人が大切にしてくられた「まことの保育の実践」といういつまでも変わる事のない本質、京都幼稚園での生活を通し、子どもたちの中に芽生えた「ほとけのこ」の気づきを見つめ直す取り組みも行った。各保育室のご法輪、文中ホールのお仏間、美しいお荘厳、毎朝の仏参、食前の言葉、心地の良い仏教讃歌。合同仏参で手を合わせる時間。子どもの誓い。生き生きとした子どもたちの姿とあふれる笑顔が私の日常であった。

令和2年(2020)年3月に京都女子学園を退職し、まことの保育の現場から離れて3年が過ぎた令和5(2023)7月に絵本「だるまちゃん」シリーズの作者「かがくいひろしの世界展」という展覧会に行った。「世界中の子どもを笑顔にしたい」という思いで絵本を描き続けたかがくいひろし氏は4年間の作家生活で16冊の絵本を描かれたが、54歳の若さで急逝された。まだまだ子どもたちに伝えたかったであろう未完の作品も数多く展示されていた。その中の一つに「ぞうきんがけとぞうさんがけ」という作品があった。

ぞうきんがけをしているぞうさんにぞうきんさんが「ねえかわってくれない?ぼくやってみたかったんだ」と話しかける。そのお話をみたとき、一つの詩を思い出した。

ぞうきん　ぞうきんは　他のよごれを
いっしょけんめい拭いて
自分は　よごれにまみれている

(榎本栄一 『群生海』)

この詩は合同仏参の時に園長先生から聞かせていただいた。この詩を聞いた子どもたちはお掃除する時に丁寧に床をふき、丁寧に雑巾を洗うようになった。そんな子どもたちの掃除する姿がよみがえってきた。京都幼稚園にいた頃、先生方と一緒に「まことの保育」を目指していろいろな取り組みを行った。同じ方向を見つめる仲間と共に研修会に参加して「まことの保育」の推進に力を注いできた。しかし現場を離れた私の生活に「まことの保育」は遠い存在になった。毎朝のお参りも合同仏参もない。みほとけ様に手を合わせることもない。ご法話を聞かせていただく機会も減った。そのような時にいつも汚れを拭きとってくれるぞうきんさんにスポットをあてたこのお話に出会い、「まことの保育」が私の隣にいるような気持になった。普段気がつかないでいる自分生活の中にも「まことの保育」は降りそそいでくれているのだと思うことができた。そして「まことの保育」は目指すものではなく、立ち止まり、振り返ったときに「そこに在る」ものなのではないかと思うようになった。先生方が子どもたちとみほとけ様に手を合わせ、一日一日を大切に過ごす日々こそが「まことの保育」なのではないか。こどもたちが大きくなった時、太陽の光や降り注ぐ雨、咲いている花。虫や動物、小さな石や使い古した鉛筆を見た時に「ああ、そういえば・・・」と振り返ることがあるだろう。「まことの保育」の現場を離れてみて初めて、私たちの生活は「まこと」にあふれているのだと気が付くことができた。私が京都女子学園で過ごした日々は私に「まことを感じる力」を育んでいてくれたのである。ありのままの私たちに願いをかけてくださっているみほとけ様に手を合わせる時間と空間、そして毎日を楽しく優しく共に過ごしてくれるおともだちや先生がいる絶対的な安心感のある場所で幼い時間を過ごした子どもたちはどこへ飛び立っても心の中に「まこと」を持ち続けることができるのであろうと考えた。

今回はそのような気づきにふれることができたかがくいひろし作「ぞうきんがけとぞうさんがけ」（未完）やこどものつぶやきを紹介させていただきながら幼稚園、保育園、子ども園での「まことの保育」のとらえ方と『まことの保育』のある場所』について願いを述べさせていただく。

かがくいひろし作「ぞうきんがけとぞうさんがけ」（未完） 「おもちのきもち」

坂田寛夫 作 「鬼の子守歌」

堀内 誠一 作 「ぐるんぱの幼稚園」 福音館書店

重森 千佳 作 「おおかみだってきをつけて」 フレーベル館